

新春賀礼会 挨拶

皆様 新年明けましておめでとうございます。
皆様方には、心新たに新春をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

新春賀礼会の開催に当たり、「和歌山県経済団体連合会」を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

ここで元日に発生いたしました能登半島地震により被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げますとともに、早急に支援が届き、被災地が一日も早く復旧、復興されますことを祈念いたします。

さて昨年5月にコロナの感染症分類が5類に移行され、ようやく通常の経済活動ができるようになりました。

こうして「新春賀礼会」がコロナ前の形式に戻り、350名を超える皆様のご参加をいただき、盛大に開催できますことは誠に喜ばしいかぎりでございます。

また、平素よりご指導、ご支援をいただいております国会議員の諸先生方、岸本知事、尾花市長をはじめ多くのご来賓の方々にもご臨席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、2024年のわが国経済の大きなテーマは「脱デフレ」であると言われていています。物価・賃金は昨年に引き続き緩やかに上昇していくものと見込まれているなかで、日銀の大規模な金融緩和策がいつ解除されるかに注目が集まっています。

一方で、労働市場ではいわゆる「2024年問題」を抱える業界を中心に人手不足感が一層深刻化するもの思われます。

さらに、長引くウクライナ危機、パレスチナ・イスラエル紛争の激化など地政学的緊張がもたらす世界経済への影響はいまだ沈静化の兆しも見えず混沌としています。

加えて、地球環境問題への取組みは待ったなしの状況であり、ESG経営の導入やGX（グリーントランスフォーメーション）への取組み強化などが引き続き求められています。

和歌山に目を向けてみますと、ご案内の通り、本年は『紀伊山地の霊場と参詣道』が世界遺産に登録され20周年を迎えます。また来年4月には大阪・関西万博が“ここ和歌山”からほど近い舞洲で開幕し、期間中の来場者数は2820万人と想定されています。

インバウンド需要等の回復で和歌山県の観光業界は元気を取り戻

しつつありますが、経済への波及効果が大きい観光業がさらに元気になるため、あらゆる機会を通じて国内外からもっと多くの観光客を誘致したいところです。

和歌山は、「豊かな自然」や「悠久の歴史を持つ神社仏閣」「海の幸、山の幸の食文化」など、言葉では言い尽くせないほどの魅力に溢れています。インフラ面においても、道路網や鉄道網、超大型クルーズ船の停泊が可能な港、空の玄関口である南紀白浜空港と、陸・海・空すべてのアクセスが充実してきております。そして何より『おおらかでお人好し』というホスピタリティのある県民性がございます。

官民が一体となって和歌山の魅力を発信できれば、多くの観光客を呼び込めるものと期待が膨らみます。

もちろん観光だけではございません。蜜柑・柿・梅など果樹農業では生産量・品質ともに長く日本一を誇り、製造業では世界水準の技術力を持つ企業が多くございます。

最近「働き方改革の先進地」としてワーケーションを採用する企業の進出もとみに増えております。また、串本町での日本初民間ロケット打ち上げ計画に宇宙ファンは胸を躍らせ、今世紀最大の成長産業と言われる宇宙産業は当地に大きなビジネスチャンスをもたらしてくれるはずです。

先が読みにくい時代ではありますが、ピンチはチャンスと捉え、大いに当地が発展していく1年になることを願っております。

今年の干支の辰年は、天高くのぼる龍になぞらえて「運気が上昇し、景気が上向く」年だと言われております。

昨年ラグビーワールドカップで躍進した日本代表チームは、全員が自分の役割を全うするという意識を浸透させるため、チームスローガンを『Our チーム』と掲げていました。

ここにお集まりの皆様が『Our チーム、Our 和歌山』の精神で2024年の和歌山県経済の高揚にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日ご出席のご来賓の方々を始め、会員の皆様方のご活躍とご健康、ご繁栄を心より祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年1月5日

(一社)和歌山経済同友会
代表幹事 田谷節朗